



白糸財産区だより
第 36 号
令和7年1月1日
発行 白糸財産区
印刷 きうちいんさつ

年頭によせて

富士宮市白糸財産区管理者
富士宮市長 須藤 秀忠



新年あけましておめでとうございます。
皆様方におかれましては、輝かしい新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。
日頃から白糸財産区の管理運営はもとより市政運営に對しまして多大なる御理解、御協力を賜り、

心から感謝申し上げます。
白糸財産区は、魅力ある豊かな自然と雄大な森林景観を象徴する大切な財産であります。
また、白糸財産区有林は、森林経営の根本となる森林認証（SGEC）取得の区有林であり、生産される木材は、高品質で付加価値の高い優良材として、市場において高評価を受けているのは周知のとおりです。昨年四月には田貫湖畔「休暇村富士」前に快適で開放感のある「田貫湖富岳テラス」が整備されましたが、このテラスの床板には富士ヒノキが使われており、空間の上質化の実現と地産地消に大いに貢献しております。

これらの実績もひとえに、財産区議会議員の皆様方の御尽力と区民の皆様方の御協力、御賜物と深く感謝を申し上げます。
さて、近年、CO₂などの温室効果ガス排出による地球温暖化が原因で、世界的に水災害が多発しております。本市も、国際社会の一員として、二〇五〇年の脱炭素社会の実現に向け市ゼロカーボン推進戦略を策定し、再生可能エネルギーの導入推進や環境に配慮したライフスタイルへの転換などの施策に取り組みしております。
その中で、国は、J-クレジット制度を活用した脱炭素社会への取り組みを加速しています。
市としても、昨年十月、白糸財産区をはじめ森林管理を担う市内四団体などの代表者を集め、「富士宮市J-クレジット運営連絡会」を発足し、J-クレジット制度の活用により官民一体となって地球温暖化対策を先導していく第一歩を

踏み出しました。
しかし、今後、J-クレジットの創出・販売に向けて、様々な課題が生じて来るかも知れません。
この課題解決にあたっては、連絡会で情報を共有し、意見を交換し、課題を一つ一つクリアして、一日も早くJ-クレジット制度を実現できるよう邁進しなければなりませんので、地球に對して豊かでやさしい森を持つ白糸財産区の皆様にも、ぜひ御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。
結びに、白糸地区の益々の御発展を心から祈念するとともに、皆様方の御健勝と御多幸をお祈り申し上げ、新年の御挨拶といたします。

白糸財産区区有林は『宝』

白糸財産区議会議長 堤 昌之



新年あけましておめでとうございます。
昨年九月、白糸財産区定例議会において、議員の皆様方に推され、議長に就任いたしました。今後とも区民の皆様には、財産区活動への御理解と御協力をお願いいたします。
議長就任後、地区主催行事等、来賓として出席させていただき、地域と財産区とのつながりの大切さを、身をもって体験しました。ありがとうございます。

近年の林業の推移、山づくりの考え方・姿勢・自然の大切さ等、長時間にわたり説明していただきました。大変勉強になり、これからの活動に生かせるよう頑張ろうと思えました。充実した視察研修会でした。
議長としては、J-クレジット関係で、富士宮市J-クレジット運営連絡会に出席いたしました。市担当者より参加団体の紹介、概要説明があり、白糸財産区としましては、協議中であることを報告いたしました。これから、具体的な内容、動向、幾度の協議が必要であり、白糸財産区としての考えを示す方向です。
このほかにも、上井出財産区六十周年記念事業や、静岡県森林組合連合会四十五周年記念市に参加しました。各団体が年数を重ねる繁栄しております。

白糸地区の区民の皆様、令和七年明けましておめでとうございます。日頃は白糸財産区の事業に御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。
令和六年九月に白糸財産区議会副議長に選任されました井出です。任期の二年間副議長として白糸財産区議会の運営を議長及び各議員の皆様と協力して執行していく所存です。よろしく願っています。

森林環境サイクルの変化

副議長 井出光彦

令和六年十月二十五日、二十一日の間、財産区の研修を三重県紀北町の速水林業において行いました。速水林業は江戸時代後期の寛政二年より三重県紀北町尾鷲で林業を営んでいる林業家です。
今回の研修において、速水氏から教わったことは、この森を将来どのようにしていくか、どんな森にしていきたいかを考え、森林を育てていくことが大事だということです。我々の先代たちは、将来の白

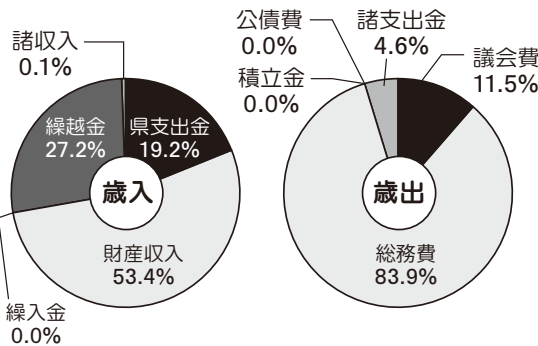
また、近年叫ばれている林業の六次産業化について検討することもあり、森を育て、それを受け継いだ皆様が森林経営計画に基づき、毎年適正に間伐業務を遂行してきた賜物である、と強く感じております。
今後は、持続可能な森林経営を堅持しつつ、様々な事業活動により排出される多くのCO₂を吸収するなど地球温暖化対策に効果のある財産区有林を、どのような形で社会に貢献させることができるのか、その情報の収集と提供が私の責務と感じております。

豊かな自然と人々に囲まれて
白糸出張所長 加藤道治
新年あけましておめでとうございます。

財産区の予算・決算

歳入		単位(千円)		歳出		単位(千円)	
区分	令和6年度当初予算額	令和5年度当初予算額		区分	令和6年度当初予算額	令和5年度当初予算額	
県支出金	10,890	7,495	歳入	議会費	4,621	4,495	歳出
財産収入	24,590	21,327		総務費	38,705	34,280	
繰入金	1	1	歳入	積立金	1	1	
繰越金	15,081	12,770		公債費	1	1	
諸収入	2	2	歳入	諸支出金	1	1,500	
合 計	50,564	41,595		予備費	7,235	1,318	
				合 計	50,564	41,595	

令和5年度決算の構成比



令和5年度の歳入・歳出概要

令和5年度決算	
歳入	開伐、作業道に対する国、県からの補助金 立木売却収入、土地貸付収入 基金からの繰入金 令和4年度繰越金 補償費など
歳出	議会活動に必要な議員報酬など 区有林の管理等に係る経費 財産に不足を生じたときの財産 他の支出科目に含まれない科目、 光ファイバー網整備事業費負担金
財産区の基金の状況	
令和6年 3月31日現在 150,079千円	

存です。
どうぞ皆様、御指導、御鞭撻の程、よろしく申し上げます。



令和6年9月定例会 白糸財産区議会議員



林業に携わる女性

J・クレジット制度の 取り組みについて

総務委員長 馬飼野 一正

新年あけましておめでとうございます。

区民の皆様には白糸財産区への御理解、御協力を賜り心より感謝申し上げます。

世界規模で地球温暖化が問題視されている中、国が認証する「J・クレジット制度」への取り組みが必要と考えます。J・クレジット制度は、省エネルギー設備の導入や

「区有林の価値」

総務委員 佐藤俊治

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年の九月に議長を交代いたしました。

さて、区有林の山は、私達の先代が村の不便な生活環境の中、村の財源になるべく、自助・共助の強い精神で生活を守り天子ヶ岳山系に植林してきました。

そのお陰で、公共施設等を整備して暮らしを支えてきました。

そうした状況下の中で、成熟した木材の利用だけでなく、地球温暖化に対する脱炭素社会への貢献、自然資本としての森林の価値への高まり等、森林の役割も時代と共に変化してきております。

その中でも、やはり区有林は、空気の清浄化・災害の防止等多くの使命を持つております。

今後の森林管理は、この多様な資源や付加価値を高める方向に持つて行くことも必要だと思います。議員も、山の恵みに感謝しつつ年三回の山の神様への祭事を行っております。今後とも区民の皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。

再生可能エネルギーの利用によるCO₂等の排出削減量、適切な森林管理によるCO₂の吸収量を「クレジット」として国が認証するものです。

今後このJ・クレジット制度を利用し、市有林を管理する市・森林事業者をまとめている森林組合・白糸財産区をはじめとする各財産区が官民一体となり、情報共有・課題解決し、より効果的なJ・クレジット創出につなげていく事で、脱炭素社会・地球温暖化対策、森林保全を推進していけると考え

新年のご挨拶

総務委員 佐野健太郎

白糸区民の皆様、新年明けましておめでとうございます。白糸財産区議員を勤め始めてから二年以上が経過しました。年が経つのは早いものです。

さて、今回は白糸財産区の祭事について御紹介したいと思います。毎年五月に山の神様・水神様・馬頭観音様、また、毎年九月と一月に山の神様の祭事を行い、山に入る方の安全を祈願しております。山の神様の事は以前から知っておりますが、水神様と馬頭観音様については恥ずかしながら財産区議員になるまで知りませんでした。

こんな弱輩者ではありますが、今年も白糸財産区の森林を守り、未来に繋げられるように、議員としてしっかりと勤め上げて行きたいと思っておりますので、今年も白糸財産区をよろしくお願いいたします。

時の流れを感じて

営林委員長 小池日出人

明けましておめでとうございます。区民の皆様には新春のお慶びを申し上げます。

この財産区だよりを書くのも再三回目、改めて時の流れの速さを痛感いたします。

去年の夏の暑さは異常でした。自分自身も何回もぶつ倒れそうになりました。今年の夏の到来が憂鬱です。まだ早いですが、区民の皆様も暑さ対策を万全にお願いいたします。

去年十月二十五日に議員で三重県にある速水林業を視察しました。経営者の代表速水亨様自らが

林業の可能性と財産区

営林委員 秋山徳浩

新年明けましておめでとうございます。

区民の皆様方いかがお過ごしでしょうか？

コロナ、インフルエンザなど気を緩められない状況が続いていますので健康には十分お気を付けください。

昨年は視察研修で三重県の速水林業へ伺いました。正直言って林業は疲弊していると思っていま

令和六年度を振り返って

営林委員 齋木義弘

新年あけましておめでとうございます。

白糸財産区議員となり早くも三年目に入り、令和六年九月から新議長、新副議長を中心に新たなスタートとなりました。

白糸区民の皆様方には白糸財産区への御理解、御協力を心より感謝申し上げます。

さて、令和六年度を振り返り、例年どおりの運営協議会、全員協議会、区有林パトロール、山の神、馬頭観音、水神さん等の年間スケジュールにより、財産区事務局と実施しました。

運営協議会報告案件では、J・クレジット制度の説明が事務局よりありました。制度の内容として

説明、また、森林内の説明を親切、丁寧にしていただきました。

速水林業は約一千haに及ぶ広大な山林を所有しており、管理されたすばらしい山林でした。自分が一番食いついたのは、海での養殖に使う長さ二十五m、末口五cmの筏丸太を一本七万円で出荷しているという話でした。物を簡単に言えば、鯉のぼりののぼり竿が一番近い感じですね。山で採れた物を海で使う、それが凄く新鮮に感じました。代表の速水亨様、ありがとうございます。

また、去年十一月五日に袋井市にある、当時テスト稼働中の木質バイオマス発電所を、自分が所属する木材関連業者グループで視察しました。燃料チップの原料は原

令和六年を振り返って

土木委員長 植松正巳

新年明けましておめでとうございます。

財産区議員となり、早くも二年が経過し、三年目を迎えました。

富士宮市でも推進しているJ・クレジット制度について、白糸財産区でも検討を始めています。J・クレジット制度とは、省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO₂等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO₂等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。

「クレジット」の売買において、購入者は温対法報告における排出係数の調整やカーボン・オフセット等、さまざまな用途に活用でき、また、購入代金は創出者に還元されます。

白糸財産区はSGECの森林認証を受けていることから創出者となるのが可能で、売却益によりさらなるCO₂等の排出削減・吸収の取り組みや、地域活性化等に活かすことが出来ます。

勉強中の身としましては、少々難しい話ですが、先人が長年におたり、管理・育成してきた財産区の山を微力ながら守っていきたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



SGEC森林認証材

二年を振り返って

土木委員 筒井一夫

新年あけましておめでとうございます。

財産区議員になって今年で三年目を迎えます。

白糸財産区議員の主な活動としては、広範囲な白糸財産区有林内のパトロールを毎月第二、第四の日曜日に議員二人体制により実施し、林内の安全確保に努めています。

また、山での安全祈願と山の恵みへの感謝を込め、山の神・馬頭観音・水神さんなどの祭事を行っています。

このほか、毎月一回行われる運

営協議会と白糸財産区定例議会を条例に基づき三月、九月、十二月に開催し、当初予算、決算、補正などを議題に審議しています。財産区の主な収入源となる間伐事業については、五か年の森林経営計画に基づき、国、県の補助金を確保し適正に行っています。しかし、近年の木材市場の価格は低迷しており、「SGEC」を取得しているものの、間伐材の売り払い収入は大幅に減少し、状況が厳しくなっています。厳しい予算の中で、最大限の効果を上げるよう、創意工夫を行いながら、今後も白糸財産区が益々発展することを願い、区民と一体となり頑張ります。皆さんの御指導、御協力をお願い申し上げます。

カーボンニュートラル

土木委員 渡邊敏一

財産区議員として三年目をむかえ、森林を守るということについて改めて考えてみました。

近年、国内外で様々な気象災害が発生しています。個々の気象災害と気候変動問題との関係を明らかにすることは容易ではありませんが、気候変動に伴い、今後、豪雨や猛暑のリスクが更に高まる事が予想されています。日本においても、農林水産業・水資源・自然生態系・健康・産業・経済活動等への影響が出ると指摘されています。こうした状況は、もはや単なる「気候変動」ではなく私たち人類や全ての生存基盤を揺るがす「気候危機」とも言われています。

気候変動の原因となっている温室効果ガスは、経済活動・日常生活に伴い排出されています。国民一人ひとりの衣食住や移動といったライフスタイルに起因する温室効果ガスが、我が国全体の排出量の約六割を占めるという分析もあり、国や自治体、事業者だけの問題ではありません。将来の世代も安心して暮らせる持続可能な経済社会をつくるため、今からカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けて取り組む必要があります。

カーボンニュートラルとは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から森林・森林管理などによる「吸収量」を差し引いて合計を実質的にゼロにすることを意味しています。